



つながり

～瞳かがやき笑顔あふれる中央小～



2026 (令和8) 年
5月29日 配信 No.3

「安心」から生まれる笑顔を「主体的な学び」の架け橋に

教務主任 仲川 和磨

本校が教育活動の真ん中に据えるのは、子ども一人ひとりが「自分が大切にされている」と心から実感できる学校づくりです。これは単なる目標ではなく、子どもたちが健やかに育つための「心の土台」となるものです。私たちは「子どもの声を聴く」ことをすべての出発点に置いています。子どもたちの小さな願いや困りごとに真摯に向き合うこと、その積み重ねが、次の一步を踏み出す勇気と主体的な学びを支える真のエネルギーになると信じています。

今年度の目指す子ども像は「瞳かがやき笑顔でつながる子どもたち」です。昨年度末に実施した児童の意識調査からは、子どもたちが「もっと自分の力を発揮したい」「自分のペースを大切にしながら、安心して仲間とつながりたい」と願っている姿が見えてきました。私たちはこれを、本校がさらに進化するための大切な「伸びしろ」として受け止めています。自分のペースで学ぶことを通じて自信を持ち、自分をコントロールする力が育てば、自然と他者を尊重し、役割を果たす心の余裕が生まれます。個の安心が「みんなでつながる力」へと変わっていく、そんな「安心して一緒にやれる」土台づくりを推進してまいります。

目指す子ども像具現化のための今年度の大きな挑戦が、「40分授業」の導入です。本校は「教育課程柔軟化サキドリ事業」の指定を受け、日課の見直しを行いました。この「40分」という枠組みは、単に時間を短縮するものではありません。集中して基礎・基本を学ぶ時間と、そこから生まれたゆとりを、子ども自身が自らの学びを深めるために使う「柔軟な時間」を生み出すための仕組みです。この時間の中では、ICTや生成AIも自分の学びを形にするための「頼もしい相棒」として活用します。自ら計画を立て、実行し、振り返る。こうした「自らの学びを主体的にマネジメントする力」を育てていくことで、子どもたちの瞳を輝かせる原動力になると思います。

こうした変革に伴い、私たち教師の役割も「教える人」から、子どもの歩みに寄り添う「伴走者（ファシリテーター）」へと進化します。これは、単に知識を一方的に伝達するのではなく、子どもが自ら問いを見つけ、試行錯誤しながら学びを深めていくプロセスを、個々の特性に合わせて柔軟に支援していく役割です。子どもが自身の興味・関心に基づいて「さらに学びたい」と願うとき、私たちはその歩みを適切に支え、必要なリソースをつなぐコーディネーターでもあります。子どもにとって、目の前の教師こそが最大の影響を与える「環境」そのものです。一人ひとりの「もっと知りたい」という火を絶やさぬよう、私たちも共に学び、成長し続ける姿を見せてまいります。

今年度は、「コミュニティ・スクール」として本格的なスタートを切る年でもあります。パートナー校である中央中学校と「小中一貫した教育」の視点を大切にしながら、義務教育九年間を見通して地域全体で子どもたちの成長を支える体制を整えてまいります。たくさんの新しい取組を通して、当たり前のことを丁寧に行うことで安心を守り、新しい価値を創り出すことでワクワクする学校を創る。教職員一丸となって、質の高い教育活動に邁進してまいります。今年度の本校の新しい挑戦に、温かいご理解とご協力をお願い申し上げます。

6月行事予定

日	曜	行事
1	月	振替休業日
2	火	運動会事後集会 ALT マット・鉄棒週間(～6/12 5、6、ひ年)
3	水	3年)2～3時間目道新出前授業 ALT 午後SC 1,6年、ひ:内科検診
4	木	2、4年:内科検診 委員会④
5	金	3,5年:内科検診
6	土	苗穂連合町内会たる神輿9:30(苗穂まちセン)
7	日	
8	月	滝野宿泊学習保護者説明会 @体育館 15:15～ ALT
9	火	札教研春の研究集会 (短縮4時間・給食あり)
10	水	ふれあい活動① ALT 第2回尿検査(該当者)
11	木	クラブ②
12	金	避難訓練②(水害) 午前SC
13	土	
14	日	
15	月	修学旅行保護者説明会予定日 @体育館 15:10～ ALT
16	火	ALT
17	水	ALT
18	木	クラブ③
19	金	
20	土	開校記念日
21	日	
22	月	ALT
23	火	第3回尿検査(該当者) ALT
24	水	ALT
25	木	委員会⑤
26	金	悩みやいじめに関する アンケート①配信 午前SC
27	土	
28	日	
29	月	滝野宿泊学習1日目 ALT 給食試食会(家庭教育学級)
30	火	滝野宿泊学習2日目 ALT

*明日は運動会です!

27日(水)に運動会プログラムが配信されております。学年によって開催時間が変わりますので、ご確認ください。

また、入場は体育館西側より行います。大通側(正門とグラウンド出入口)からは入場できません。中央小学校の名札を付け、御家族でまとまった入場をお願いいたします。少しでも御覧いただけるよう競技に合わせて保護者観覧スペースを変更します。詳しくは学年だよりで御確認ください。御理解の程、どうぞよろしくお願いいたします。

札教研春の研究集会(9日)

4時間授業・給食あり・12時45分頃下校

今年度も、春は中央中とグループを組んで研修を行います。今回は、小、中、互いの学習の様子について知ることをねらいとして、小学校の5学級で授業を公開するとともに、中学校の実践発表も交流しながら、小中9年間を見通した学習活動、学習展開の構築を目指していきます。

授業を公開する、**2年3組、3年5組、4年1組、5年2組、6年2組の児童は、14時頃の下校となります**ので、御確認下さい。

マット運動・鉄棒運動週間について

2日(火)から12日(金)まで、5、6年生、ひまわり学級のマット運動・鉄棒運動週間になります。この期間は、マット運動と鉄棒運動の体育の時間が多く、ひろば時間もマット運動や鉄棒運動に取り組むことができます。時間割で確認しながら、動きやすい服装へのご配慮をお願いします。

開校記念日(20日)

中央小学校は今年で開校58周年を迎えます。地域、保護者の皆様に教育活動を支えていただいていることに感謝申し上げます。1階の資料室に本校の歴史資料を展示します。この機会にどうぞ御覧ください。

悩みやいじめに関するアンケートについて

今年度1回目の悩みやいじめに関するアンケートを、26日(金)に配信します。その日は全校でクロームブックを持ち帰りますので、御家庭でアンケートに御回答ください。お子さんの回答へのサポートをお願いします。

また、同日に生成AIの教育利用に関するアンケート(保護者・児童共にも)配信させていただきます。回答への御協力をお願いいたします。

熱中症対策について

本校でもスポットクーラーや扇風機を設置し、熱中症対策や児童の健康管理については十分な注意を払い行っていますが、御家庭でも健康管理への御配慮をよろしくお願いいたします。

1.生活のあり方について

- (1) 睡眠時間を十分に確保してください。睡眠不足は、“熱中症”を引き起こしやすく、また、疲労の蓄積、集中力の低下などによってケガなどを誘発させてしまいます。
- (2) 毎日3食の食事を摂ってください。食事を摂らないと、体力が持たずに“熱中症”を引き起こしやすくなります。
- (3) のどが乾く前に、水分を補給するなど、こまめに補給してください。

2.準備するもの

・飲料水(学校の水筒は水かお茶、5~9月はスポーツドリンク可) ・帽子 ・タオル(汗拭き、首巻等)
 ※熱中症対策として、冷感効果のあるタオルタイプのものを持ってきていただいて構いません。うちわやハンディファンなど、手に持つ物、電動の物、冷感スプレー等に関してはお控えいただくようお願いいたします。

3.教育活動について

- (1) 教育活動の実施については、暑さ指数計を用いて周囲の環境を測定して判断していきます。暑さ指数(WBGT)が31以上の場合は、体育や校外での活動を中止します。
- (2) 体育の際は、上着を脱いだり、マスクを外したり、軽装でいるように声掛けをします。また、アイスリングは身体を動かして活動する場には適していないので、運動時には外すようにします。
- (3) 活動後の健康観察も行い、子どもたちの健康状態の把握をしていきます。

資料出典「熱中症環境保健マニュアル 2022」環境省

「札幌市立幼稚園・学校における熱中症対策の参考資料」 R6年2月 札幌市教育委員会

表1-1 暑さ指数(WBGT)に応じた注意事項等

暑さ指数(WBGT)による基準域	注意すべき生活活動の目安 ^{#1}	日常生活における注意事項 ^{#1}	熱中症予防運動指針 ^{#2}
危険 31以上	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。	運動は原則中止 特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。
厳重警戒 28以上 31未満		外出時は炎天下を避け室内では室温の上昇に注意する。	厳重警戒(激しい運動は中止) 熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10~20分おきに休憩をとり水分・塩分を補給する。暑さに弱い人は運動を軽減または中止。
警戒 25以上 28未満	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休憩を取り入れる。	警戒(積極的に休憩) 熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
注意 25未満	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。	注意(積極的に水分補給) 熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。

^{#1} 日本気象学会「日常生活における熱中症予防指針 Ver.3.1」(2021)

^{#2} 日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」(2019)

※暑さ指数(WBGT)の単位は気温と同じ摂氏度(°C)で表示されますが、湿度や周囲の熱環境、気温を取り入れた指標です。左列の値は気温ではありませんので御注意ください。